

信友会創立15周年記念

信友

信友会事務局

東京都渋谷区東1丁目32-13
ビル・ナミキ橋

辛口婆心

信友会会長 大河原三平

信友会は早や十五周年。曾てお招きにあづかり現役の代表として、先輩諸兄の御健闘と共に若い者えの諸々のフイードバックがうまく且つ密接に行なわれるよう、会に対してOBと現役の良い接点としての役割りををお願いしたが、つい昨日のように思えます。

何か時間の経過が早く感ぜられ急務することの少いことだけがいらだたしく思えるのも年のせいでしょうか。

ともあれ、同一目標に対して燃やした情熱の炎は現在の立場、行動は別々でも、その火種は何時も夫々の心の何処かに残って居るものと思えます。折に触れ機会を求めて火種をかき立て通信の伝統に生きた強い連帯感を強め且つこれを大切にして明日への活力として行きたいものと念願して已みません。

さて会運営の具体的な方法となると仲々極め手といった名案は見つからず、取敢えず、せめて余にお互が疎遠にならないよう幹事諸兄が智慧を絞っておられますが、皆さんからの積極的な御意見を期待しております。

現職を去って早や数年。しみじみと思うことは、兵隊屋敷では卒直忌憚らない話し合いが出来たことです。お互「口は悪いが腹は悪くない。」(これを中国では「辛口婆心」と言うそうです)種族であり得た事の幸を時折りかみしめて居ります。信友会はお互は勿論、現役との接点としても同一言語族として互いに語り、書き、読む等々益々真に暖い連帯の場でありたいものと思ひます。



本会は発足以来皆さんの御努力と現役諸官の絶大な御協力により整齊と発展し又二三の例を除き会員の皆さんの御健勝

御活躍の程は御同慶の到りであります。

更に一層の御発展を祈念して御挨拶とします。

信友会の皆様へ

陸上幕僚長 永野茂門

全国各地で、各方面に御活躍の信友会千数百名の会員の皆様の御健勝、御発展を心からお慶び申し上げますとともに、信友会が会員皆様の心の絆のよすがとして大同団結の実を挙げつつ、発足十五周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

願ひるに、発足当時の昭和三十



信友会と通信課

陸幕通信電子課長 三ツ矢昭義

信友会発足一五周年を心からお祝い申し上げます。

昭和三十九年通信科職種のOB会が、当時の陸幕通信課長大河原将補(現会長)と櫻先生(初代会長)の肝入りで信友会として誕生して以来一五年、益々隆盛の一途をたどり今や、通信科職種の団結の強固さについて、他職種の羨望の的になつて居ることは誠に御同慶にたえません。もとより通信科職種の任務は、指揮、情報の迅速円滑な疎通であり、これに携わる者に心の通いなければ使命は達成で



心を通いなければ使命は達成で

つ実質的な防衛論議の高まりの中、次の世代を担う若人と手を携え、常に清新の氣に充ち満ち、簡にして明、戦勝を確実に掌中に収め得る陸上自衛隊及び通信の発展に渾身の努力を傾注する所存であります。



信友会と通信学校

通信学校長 小林有一

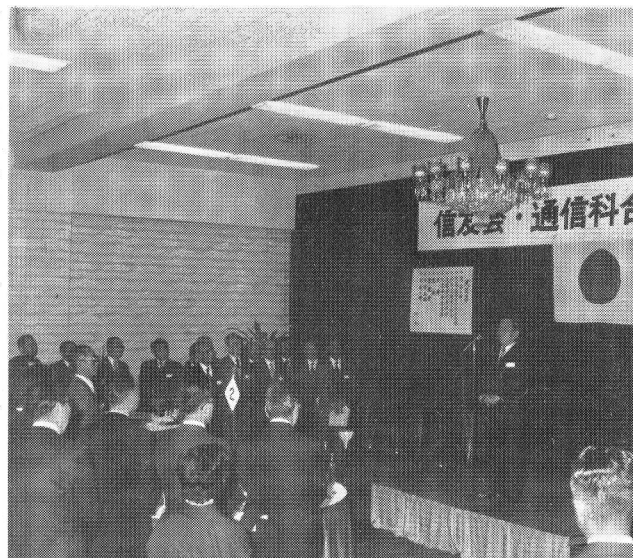
信友会会員の皆様、創成十五周年おめでとうございます。

私は、この度陸上自衛隊通信学校長を拝命し、過日着任致しました。通信学校の勤務は、二度目ではありますが、二十年振りに久里浜の地にまいりまして大変深い感慨をおぼえております。

学校の風貌、体様は、外観こそ大きな変化は見当りませんが、その内容については随分と大きな変り方をしております。通信電子をとりまく環境は、著しく変化しており、陸上通信電子に久し振りに直面的に接する機会が豊富にあると思います。

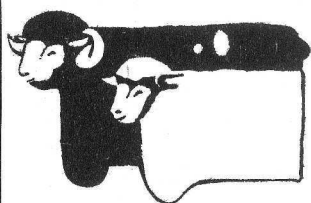
我々は、諸先輩の築かれた良き伝統を継承しつつ、かつ課題を解決すべく努力致しておりますが、一層の御指導と御支援を期待する次第であります。思い起せば、通信課長在職時、通信科創成二十五周年記念祝典を、信友会の多大の御支援をいただき担任致しましたが、その時の通信科の大同団結の感動は、忘れ得ません。ここに又、信友会十五周年をお祝いさせていただく機会を得ましたことは光栄に存しております。

終りにのぞみ信友会の今後の発展と会員の皆様の御健勝をお祈り致します。



が今日の隆盛を見た最大のものは歴代会長はじめ幹事の方々の並々ならぬ御尽力の結果でありまして、その間の御努力に對しまして心から敬意と謝意を表する次第であります。

さて、現職の私共もやがては信友会の一員に加えていただくことは必定であり、準会員と申してもおかしくありません。従いまし従来から陸幕通信課において信友会の事務を一部お手伝いしてまいりましたが、今年の陸幕改編により通信課の機能が縮小されたため、



信友会と通信団

通信団長 依田 文彌

29と19と15。自衛隊と通信団と信友会の年令であります。通信の初期のOBの方が信友会を結成されてから、遂次充実発展して十五年の年輪を重ねたことは誠に慶賀のいたりであり、敬意を表します。◆自衛隊内ではいたるところで団結の強化が叫ばれます。私は団結には三つの要素があると考えます。隣接同僚間の理解と協力。いわゆる横の団結。上下級間の信頼と上意下達・下意上達、いわゆる縦の団結。もう一つは先輩と後輩OBと現役、前任者と後任者間における伝統の継承と心のつながり、いわゆる時間軸の団結。この三次元の結びつきによりはじめて確固たる団結となる。私の持論であります。◆信友会の存在と発展は、陸上自衛隊通信関係部隊及び隊員の融和団結を示すものであります。益々伸びていくことを願っております。◆信友会会員名簿によれば、最終補給が通信団であった方は約〇〇名であります。在官中に勤務されたことのある方は非常に多数であります。◆通信団は通信部隊の中で唯一の団として、基地野外における自衛隊の骨幹通信を担任するとともに、標定・監査・写真等の特殊な業務に任じております。それだけに技術的に高度な装備を有し、これを駆使して、真に役に立つ精進を日指しております。◆信友会皆様の精神的及び技術的な一層の御鞭撻御支援を切にお願いする次第であります。



信友会を祝う

前通信学校長 大辻 隆三

信友会が発足して、十五周年を迎えましたことを、心からお祝い申し上げます。信友会は、今や千名を超える陣営を整え、「會員相互の親睦」を図られることはもちろん、現職自衛官にとつては、よき先達として、公私にわたって御指導、御協力をいただけることは、誠に有り難い存在

信友会と通信補給処

通信補給処長 野口 裕

「信友会」の発足十五周年を心からお慶び申し上げます。他職種から羨望され時には嫉視すら受けている「通信ファミリ」の固い団結の具現とも云える「信友会」の集いの模様を、現役の連中にも直接その眼で視て確認させることによって、我々の団結強化の意欲増進を図ることも、先輩から後輩へ、OBから現役へと繋がる心の絆をもつて、自衛隊の通信を貫きたいという気持ちから、陸上通信課経給班長当時、今日のこのような形式の懇親会をお願い致しました。そのスタイルは今後種々の変化を生ずると思っておりますが、この心意気だけは持ち続けて欲しいと思います。さて、通信補給処も大宮に移駐定着してから、既に二十年を経過いたしました。爛漫と樹木の盛りを謳歌する様、天に向って更に伸び続けていくヒマヤラ松等、「緑豊かにして光あふれる駐とん地」



であります。自衛官は、やもすれば当面の業務に追われて、自衛隊という小さな檻の中に蟄居がちであります。信友会は自衛隊と社会とのかけ橋として、現職のもの視野を広め、新しい知識を入される効果は誠に大きいものがあります。また、御承知のとおり、陸上自衛隊においては、あと数年にして実戦の経験者は皆無となります。このことは、教育訓練の面からみても大きな問題であります。「若き時、いらぬ事と聞きおきし事こそ、老いて用に立ちけれ……」出雲の武将、多胡辰敏の家訓にあるようですが、先輩各位の貴重な

53年度会計報告 (53, 2・25~53, 11・30)

収入の部	前年度繰越金繰入	590,998
	14回総会費	26,530
	収入計	112,000
支出の部	52' 会費簿印刷費	100,000
	52' 慰金(故野口氏, 飯田氏)事務経費	28,000
	支出計	5,000
	54' へ繰越	133,000
		596,528

上記について監査の結果報告内容のとおり相違ありません。

会計監査担当 江守 公明 53, 12・5 杉本 泰隆



さくら (裏面) 信友会 15周年 刻印

☆信友会のバッチをどうぞ☆ 信友会のバッチを作りました。二月の懇親会の際に差上げますが、欠席の方も是非御受用下されたく、陸上通信電子課管理係、または信友会事務局にお申込み下さい。

(昭和五十二年十一月十日)

御体験を後輩に伝えられるために、ぜひ、久里浜にお立ち寄りください。軍事技術は、今や、電子技術の発展を中心に大きく転換しようとしています。このような時期にあたり、信友会は陸上自衛隊通信の先達として、ますますの御発展あらんことを、お祈り申し上げます。今後とも引き続き御指導を賜りますよう、お願い申し上げます、お祝いの辞といたします。

★祝信友会創立15周年★祝信友会創立15周年★祝信友会創立15周年★

- 電気興業(株)
- (株)ゼネラル
- 新電元工業(株)
- 山洋電気(株)
- サンケン電気(株)
- 国際電気(株)
- (株)光電製作所
- 神田通信工業(株)
- 川村精管(株)
- 沖電気工業(株)
- 安立電気(株)
- 旭電機工業(株)
- (株)愛日

☆ 思いでばなし ☆

初代会長 桜 義雄

昭和二十五年北朝鮮が韓国に侵攻を始めた日の午後、鎌倉長谷ハカリ電気商会のオヤジは店頭に立つて次から次へと南下して行く米軍機を眺めていた。

フと我にかえった。戦闘のラジオニュースと上空の飛行機の轟音でいくさの感が戻ったのか？ 圧倒的に優勢なはずの米軍が間合ひを取るの何故だろう。重大な情報を持つてのことに違いない。さてはいくさは大きくなるか長びくか。すると現在不況のどん底にある通信機メーカー特に無線業界は忙しくなり、或いは俺をやとってくれる会社があるかも。

早速旭電機の名和社長と電気業界に顔の広い義兄に電話を掛けてみたら両方から直ぐ来いと返事が来た。兎も角どんな仕事をするのかと旭電機に行ってみた。昼夜二交代で米軍無線機の整備を受託するのでその一端を担当するのだと。明星電気の方は高層気象観測器材や無線テレメータの開発をするため研究所を新設するのでその所長要員との話なので、海軍の先遣がソノソロおられる旭電機より全然未知の明星電気に御厄介になることに決心してタケノコ生活に一段落をつけた。

大森の東京電波の工場の屋根裏みたいな所に間借りしていた無線研究室を上大崎に移し、目黒研究所として仕事を始めた頃に警察予備

隊の調達が始まり越中島にお出入りするようになった。

明星電気は駐屯地の共電式電話交換機的主力メーカーとなることに成功し、又五三三とか三〇〇とか云うFM無線機もやりたいと思つてアドバイザイヤラサージエント達と接触し、試作をしたがこの方は指名に入らなかった。

高層気象観測装置は送受信周波数が三〇〇MCから四〇〇MCへ、更に一六八〇MCへと転々しその都度気象庁と警察予備隊へ納入した。三〇〇MCと四〇〇MCは八木アンテナ四本の等感度方式指向性空中線を使い、一六八〇MCは米軍のGMDIーが供与されたので受信機に附加装置をつけて国産のソナデを受信出来るようにした。

十五周年に寄せて

二代会長

安崎 操

通信には全くの素人の私が思いがけなく通信課長を拝命したのは、越中島時代の終り頃であつた。僅か一年ではあつたが、今振り返つて何かと懐かしい思い出が多い。その御縁で私が自衛隊を退職した三十九年に、矢口君からOB会を作り度いので会長になつて呉れとお話があつた。

部隊創設の頃は、その規模に比べて旧軍各期の優秀な若い人が多数入隊していたが、急速な成長も出来ず、技術職種ではその技術も充分発揮する場が少なく、為に或は自ら、又部外から望まれて早く退職する人がばつばつあり、やがて停年制となり、私が退職の三十九年頃には未だ働き盛りの若い退職者が遂次増加しており、通信O

この頃から気象庁はロボット気象観測装置の開発を始め、明星電気は四〇〇MCをテレメータ電波とする気象観測ロボットを全庁に納入した。第一号機は四国の剣山に設置し、大阪管区気象台へ送信し、第二号機は群馬県の赤城山に設置し前橋測候所へ送信することとなつた。

昭和二十五年発足した警察予備隊は翌二十六年には陸海軍の中佐級を採用して部隊の上級幹部に充てたが二十七年には大佐級を入れたことになり、特に通信課長には海軍大佐の通信屋と云う話で小生と海兵同期の長井弘介君が選ばれたが、戦後体をこわしていた彼が身体検査で落第した為こちらにお鉢が廻つてきて、越中島に呼び出され結局補欠採用ということになり、僅か二ヶ年で明星電気目黒研究所と別れを告げ久里浜の総隊学校に入校した。

以上が終戦から自衛隊に入るまでの小生の人生の一コマです。御一読を賜われれば幸甚です。

Bも相当数に達していたので、OB会の要望は当然であり機は熟していた。通信の会長は、通信生え抜きの人がふさわしい事勿論であるが、兎も角、適当な人が出る迄、通信課長を終った人の一年交代でやろうという事で二代会長をお受けしたわけである。この間合は年々急速に会員数を増し、今日では数多い自衛隊のOB会の中でも、実のある立派な会に成長している。これは、いつに元気に活躍中の会員各位の積極的協力と団結に基因する事勿論であるが、矢口君始め世話人各位の献身的なお骨折り、特に陸軍通信課の親身かつ、多大の御支援に依る所大に共に感謝に耐えない次第である。

感 雑

4代会長 山本 筑郎



祝辞の重復となつてもいけないので私は最近の心境の一端を述べさせて戴くことにした。六十七歳、マスコミは敬老と騒がれることに稍々抵抗を

三代・五代会長 平岡 与一郎 (52・3・5死去)



亡くなられた会員 各位の冥福を祈る

である。

唯残念なのは、この十五年の間に、平岡前会長始め相当数の会員が未だ若くして既に亡き数に入られた事で、天命とは云え誠に痛恨の極みである。ここに故友の御冥福を謹んでお祈りすると共に御遺族の御幸福を祈り上げます。

最近陸上自衛隊の組織の改編があり、通信関係にも多少違つた二エアンヌも出て当然かとも思われるが、OB会には何等変化はないと申すべく、信友会が今後共、通信の心友相互の振れ合いのよき場として、併せて自衛隊通信の発展に多少なりとも寄与出来る様、一層の発展を期待し、会員各位の御健康と御活躍を祈念して止まない次第である。



★祝信友会創立15周年★祝信友会創立15周年★祝信友会創立15周年★

東京芝浦電気(株)

東京電波(株)

東芝エレクトロニクス(株)

東洋通信機(株)

長野日本無線(株)

ニコー電子(株)

日進電子(株)

日本アビオトロニクス(株)

日本航空電子(株)

日本電気(株)

日本電業工作(株)

日本無線(株)

原電気(株)

(株)日立製作所

25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42
12	山田拾録 (通信課長)	7	桜義雄	3	安崎操	8	平岡与一	郎	8	山本筑郎	7	大河三郎 (才1回)	原三郎 (才2回)	平三郎 (才3回)			
各課、各部隊、各班等のグループの会															39	40	41
															11・5 札幌の社会館 (66名)	12・10 市ヶ谷会館 (68名)	11・16 九段会館 (71名)
42	3	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54				
大西健吾 (才4回)	田中稲雄 (才7回)	田中稲雄 (才8回)	田中稲雄 (才9回)	田中稲雄 (才10回)	田中稲雄 (才11回)	田中稲雄 (才12回)	田中稲雄 (才13回)	田中稲雄 (才14回)	田中稲雄 (才15回)	田中稲雄 (才16回)	田中稲雄 (才17回)	田中稲雄 (才18回)	田中稲雄 (才19回)	田中稲雄 (才20回)			
42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54					
目黒雅叙園 (73名)	九段会館 (84名)	八芳園 (115名)	九段会館 (102名)	ホテルパシフィック (122名)	ニュー東京 (148名)	八芳園 (163名)	九段会館 (143名)	日本園 (129名)	日本園 (269名)	国際観光 (265名)	国際観光 (265名)						
(名簿作成)	企業懇談会実施 九段会館(臨時) (71名出席) (会則制定)			(会則改正)		(音楽隊) 支援		現役(220名) (通信課創立 25周年記念大会) 合同実施		(現役と共催で懇談会を実施する事) となり退職者歓迎迎会を兼ねる							

信友会の歩み

月日の経つのは早いもので、
と云う間にここに十五年を迎える
事が出来た。
世の中はすべて縁にて結ばれて
いると申し血縁、学縁、地縁、職
縁等と申します。
戦後廃虚の中から御互いこれこ
そ国家のために最高の仕事で
あると信じ自衛隊に馳せ参じまし
た。
そうした土壌の中から生れた職
縁が今日の強固な心のつながりを
作り上げてくれたものと信じてお
ります。
省みますに信友会(通信OB
会)発足以前自衛隊の歴史も十年
を数える頃ばつばつ退職者が巷間
に出るようになり相成りました。そ
して各部隊、各部署ごとにグルー
プの会が生れ始めました。
その頃たまたま有志の方々の要
請で皆さんを一同に集めて戴く
機会を河合さんが音頭を取られ
私に御声をかけて下さいました。
早速御手伝いをさせて頂きここ
に第一回のOB会が誕生する事と
相成りました。
その後お前は若いんだから(当
時)じ後めんどろをみると言われ
まして潜越とは思いましたが御引
受せて戴き今日に相成りました。
大河原現会長が通信課長の時大
変だろ通信課で支援してやるか
らと申して下さるじ後歴代の課長
さん始め通信課の方々の絶大な
御支援を賜り又歴代の会長さん
員の方々の御理解ある御指導協
力により今日の隆盛を見る事が出
来ました。
先般陸軍通信課二十五周年を迎
え記念式典も盛大に実施されまし
た誠に御芽出たき事と皆様と共に
願わくはこうした自衛隊の発展
と共に未永く会の益々の発展を期
したく、また会員相互のために何
物かをもちたらく、考えている
次第です。
御陰様にて前回の総会の折里見
さん江守さん森さんの御三方の事
務局参画の御承認を戴きました。

ご 案 内

15周年懇親会について

信友会の15周年を祝ひ例年のとおり現役と共催にて左記のとおり歓迎と懇親の会を実施しますので奮って御参加下さい。

一、日時 54年2月24日(土)16時
二、場所 ホテル国際観光
東京駅八重洲北口
電話〇三二二五三二八一
三、会費 6千円(記念品代含む)
四、出欠について同封のハガキにより2月10日までに必ず御返事下さい。なお本年は総会とは行ないません。会計報告は第2面に記載してありますので御覧下さい。

回 後 記

信友会の十五周年を記念して「特集号」を出そうという話もちあつたのが昨年の七月頃でしたがそれから約半年陸軍通信電子課通信団など現役の皆様並びに歴代会長等OBの皆様御助力御支援によりようやく発刊の運びになりましたが特に苦勞した編集では依田団長に大変御尽力を戴き大いに助かりました。
なお今後このような「だより」を三年に一回ぐらいは出したいと思ひますのでその節はまた皆様よろしく御願ひ致します。また五十四年度の恒例の懇親会については左記欄に御案内をのせてありますので是非御覧下さい。
(事務局里見他)



★祝信友会創立15周年★祝信友会創立15周年★祝信友会創立15周年★

(注) 一、アイウエオ順
二、所在地・電話番号等は紙面の都合上で割愛致しましたので御了承下さい

御協賛下された各社に
対し信友会一同心から
厚く御礼申し上げます

富士通(株)

松下通信工業(株)

松下電器産業(株)

松下電送機器(株)

三菱電機(株)

明星電気(株)

ヤナセ(株)

谷村(株)新興製作所

ユタ力電気(株)